

自分たちのまちへ

子ども議会
2014

真つすぐな思い

市内中学校の代表者が「議員」となって市長らと質疑を行う「子ども議会」。とめ青年会議所（齋藤力理事長）が主催し、本年度5回目となる子ども議会が11月16日、市役所議場で開かれました。今回は市内10校から選ばれた20人の子も議員が登壇。自分たちが住む登米市のまちづくりについて質問し、布施孝尚市長、片倉敏明教育長らが、市の考えを述べました。4人の子も議員の質疑を中心に伝えします。



高齢化が市の経済などに影響がないか、心配です



のりひと 君
堺 紀人 君
(新田中・2年)

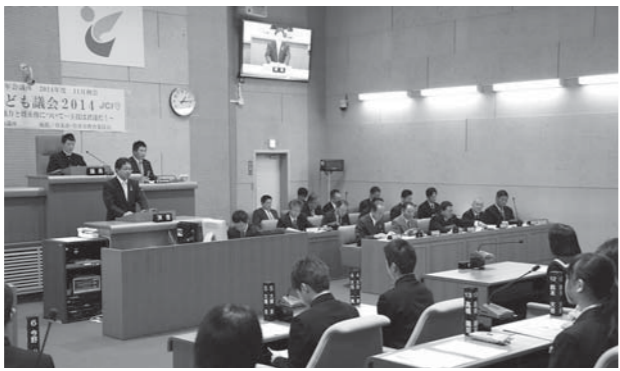
経済と高齢化について質問します。
第1次産業（農林業）、第2次産業、第3次産業があります。特に新田地区は農業や畜産業を営んでいる家が多いのですが、作業は高齢者が中心になってきていると思いません。
特殊な機械の扱い方や産業技術がきちんと伝えられていくのか。高齢化が登米市の経済の低下などに影響がないのか心配です。

【答】「経済と高齢化」についてですが、本市の産業別に見た就業者の動向は、農林業に従事する第1次産業と製造業などに従事する第2次産業の割合が減少し、小売業などに従事する第3次産業の割合が増加しています。

特に、第1次産業の就業者の減少が大きく、平成22年の13405人から平成22年には5277人となり、20年間で約6割も減少しています。農業就業人口の平均年齢は、平成12年には59・9歳でした。それが、平成22年には65・3歳となり、10年間で約5歳の高齢化が進んでいるという状況です。農業従事者の高齢化は、本市の農業経営の大きな課題となっています。

農業経営の中で、多くの技術的な継承については、それぞれの農家で農業後継者へ引き継がれているところが大きいと考えています。市では、農業後継者の確保・育成のため、新たに農業に取り組みたいという人に対し、大規模な農家で農業技術の習得や体験をする研修などに、幅広く支援しています。

本市の基幹産業は農業です。今後も、農業後継者の確保と農地の集積・集約化による農業生産コストの削減を目指します。そして、野菜の作付け拡大や効率的な生産体制



緊張感が漂う議場で、本番の市議会さながらの質疑が行われました

の整備推進による園芸の振興、畜産経営の生産基盤整備の推進によって畜産の振興を

通学路が暗いので、街灯を設置していただけないでしょうか



佐竹 ことみ さん
(米山中・3年)

街灯について質問します。私の家は木に囲まれているので、とても暗いです。車の通りも少なく、自転車通学の私は自転車のヘッドライトと街灯を頼りにしています。ですが、通学路など、よく利用する道路には街灯が少ないのです。木の多い所や田んぼなど、暗い所がたくさんあります。そのような所に街灯を増やしていただけないでしょうか。

【答】防犯灯の設置については、地域からの要望を受け、夜間の歩行者の通行状況や周辺の明るさの程度、防犯上の必要性などを考えて設置しています。

昨年度から、防犯灯を新設する際はLED灯を設置することにしています。さらに昨年度から本年度にかけて、60以下全ての防犯灯を蛍光灯からLED灯へ切り替えているところでは、

このことによって防犯灯の明るさが増し、より安全度が向上します。また、長寿命化が図られ、ランニングコストの縮減にもつながっています。防犯灯の設置数は、合併時点で7669基でした。それが、平成25年度末には8248基となっていて、着実な整備が図られています。本年度の設置については、通学路を重点的に整備しています。市内の通学路で防犯灯が必要と思われる場所を調査し、新たに65基を設置したところでは、

ただし、地域によっては、交通安全上はもちろん、防犯上も含め、さらに照明が必要と思われる箇所もあると思わ